

## 重点取組分野の数値目標と達成に向けた取組

重点取組 の分野	R10（2028）年度の数値目標	令和6年度の取組
動物福祉	動物福祉評価の全項目のうち「×：改善が必要」「△：改善の余地がある」と評価された項目の割合：全項目の5%以下 (参考：R4（2022）年度評価：21.2%)	資料6のとおり
保全	放鳥・モニタリングするオオワシの累計数：5羽	令和7年度に第1回目の放鳥の実施を目指し、令和6年度は関係者等との合意形成、トレーニングケージの修繕及び資金調達に関する検討を行う。
保全	認定動物園等への研修会実施件数：年2回	研修会は認定動物園に対し行うが、認定となった動物園はないため、研修会実施は未定。 令和6年度は準認定施設に対し、同施設が認定を目指すにあたり飼育マニュアルの作成を予定していることから、作成に関する必要な助言や情報提供を行うなどの連携協力をしていく。 また、認定動物園を目指す市内1施設について、令和6年度内の「準認定施設」登録に向けた協議・調整を進める。
教育	園内イベントへの参加を通じて生き物と人との関わり大切さを理解した人の割合：100%（イベント参加者アンケート）	園内イベント等において、生き物と人との関わり大切さへの理解を進めるプログラムの提供を行う。 ・動物観察プログラム「今日からザリガニ博士」 ・子どもの1日飼育係、等
調査研究	HP掲載の調査研究報告書等の閲覧回数：毎年増加	調査研究報告書等を掲載するホームページを作成し、報告書等の更新を適宜行うことにより、閲覧回数の増加を目指す。
リ・クリエイション	円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合：75%（来園者アンケート） (参考：R4（2022）年度63%)	来園者に動物園の魅力をしっかり伝えるべく、以下の取組を着実に実施していく。 ・円山ZOOガイド ・各種教育プログラム
リ・クリエイション	円山動物園にまた来たいと回答した人の割合：79%（来園者アンケート） (参考：R4（2022）年度74%)	以下の取組により、来園者の観覧環境の充実を図り、左記数値の向上につなげる。 ・園内掲示・リーフレット等の見直し ・来園者から寄せられた意見等への速やかな改善・対応
基盤整備	持続可能な運営手法の導入検討	経営基盤の安定化や基金の活用など持続可能な動物園運営の在り方について検討する。
施設整備	園内施設の修繕必要件数：73か所 (参考：R4（2022）年度169か所)	各案件の優先順位、修繕方法等を決め、修繕を進めていく
施設整備	施設保全計画の策定	外壁や屋上防水、ポンプや照明などの設備の長期修繕計画策定に向けて、劣化調査等を実施していく。
施設整備	北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施	大学等との調査研究を進め、北海道ゾーンのコンセプトや取り組み内容、展示種や展示手法を検討していく。